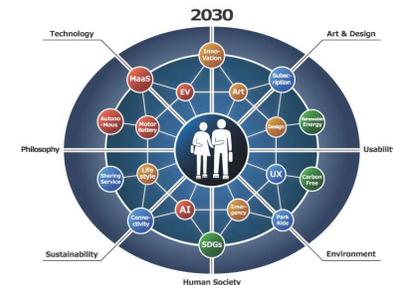


# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop



## みんなでモビリティの未来を描こう！！



## APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ キックオフ発表会

2024年2月4日（日） 14:00～15:30

@YOXO Festival : 横浜みなとみらい21地区 I\_ハンマーヘッドCIQホール ステージ

主催 : 「モビリティで2030を創る」実行委員会  
事務局 : 一般社団法人 電気自動車普及協会 (APEV)

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

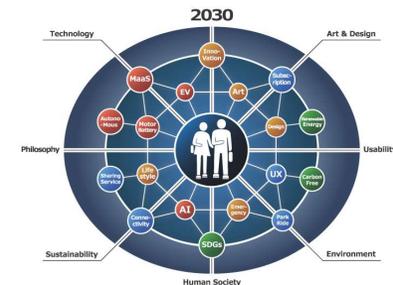


## ◆式次第

- 開会宣言 : 司会 APEV理事 上荒磯 祥彦
- ご挨拶 : APEV代表理事 田嶋 伸博
- 参加学生発表 : 2022年最優秀賞受賞

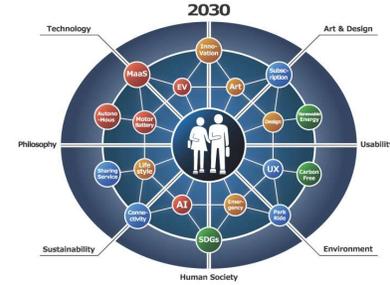
都立大学サカイモビリティシステムズTeam 代表 坂井 響氏

- 選考委員メッセージ (ビデオ) : 選考委員 女子美術大学 松本 博子先生
- 参加校メッセージ : HAL東京 白岩 直人先生
- 2024年企画説明 : APEVアドバイザー 望月 公哉
- 質疑応答
- お礼ご挨拶 : APEV会長 鈴木 正徳  
(終了後関係者で記念写真)



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

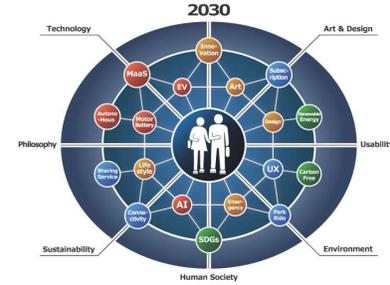


## 開会宣言

司会 APEV理事 上荒磯 祥彦

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop



## ご挨拶

APEV代表理事 田嶋 伸博

# みんなでモビリティの未来を描こう!!



一般社団法人 電気自動車普及協会 (APEV)

# 1. APEVについて <ビジョン>

地球温暖化

化石燃料  
資源の枯渇

人口爆発

様々な社会課題



APEV

未来の子供たちのために、  
美しい地球を残したい

電気自動車（BEV/PHV/FCV）の普及による環境改善を推進

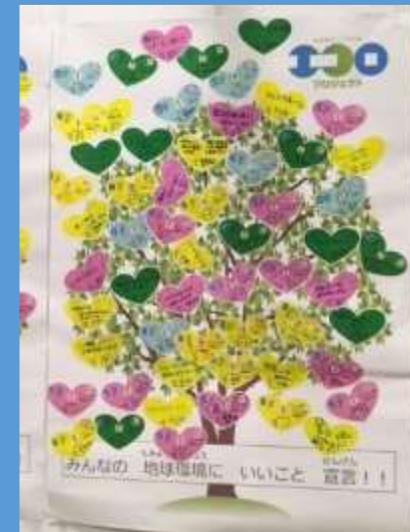
モビリティの未来への期待を高める  
2010年～2016年  
電気自動車の可能性を発信



# モビリティの未来への期待を高める

## 2017年～

### 地域でEVの可能性を発信

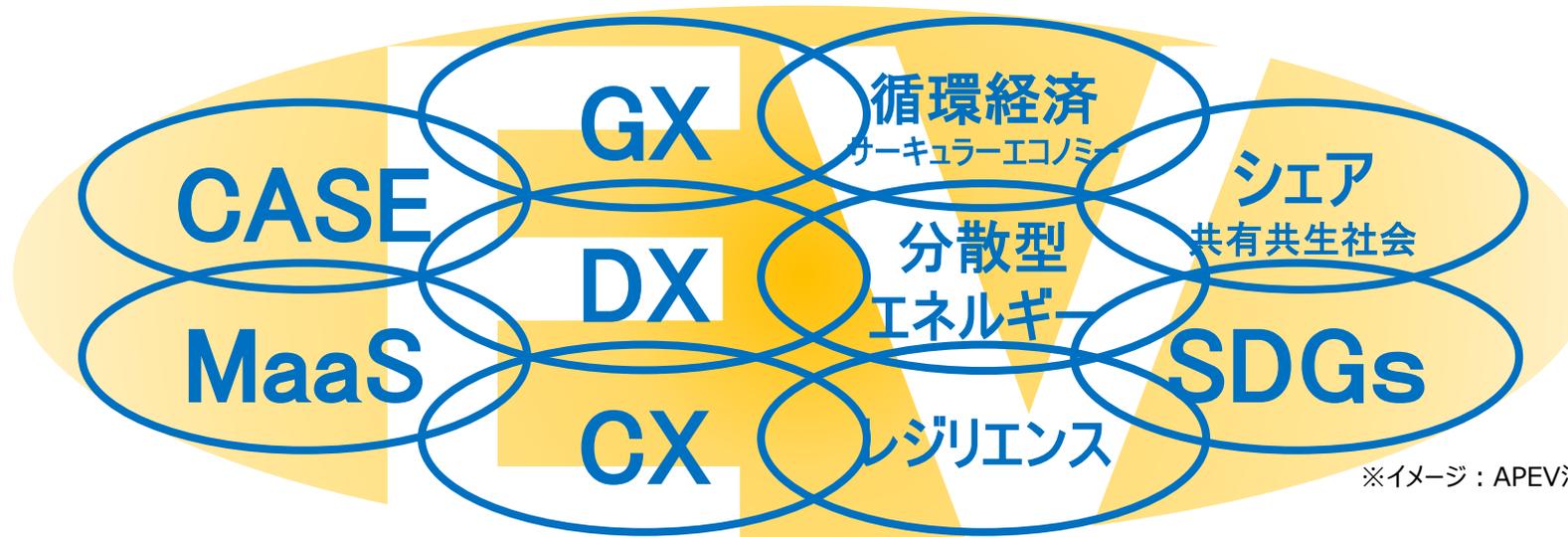


三代目しまじろうカー

EVは、電動化という環境技術の一つであり、社会環境変化に対応したビジネスモデル変換が必要

# 今現在“モビリティ事業”って何???

概念・定義が、まだ確立されておらず、新たな社会システムへの変革を進める必要がある



※イメージ：APEV活動範囲

APEVは、新たな「人材と基準」づくりでモビリティ事業を普及する

# モビリティ社会を担う新たな人材の育成



2013年～ APEV主催 国際学生デザインコンテストを開催



モビリティサービスを通じて  
人々の暮らしをもっと豊かに



# みんなでモビリティの未来を描こう!!

電気自動車普及協会主催 国際学生デザインコンテスト入賞作品の紹介

## COCOON EV-SCHOOL

MAKE EDUCATION ACCESSIBLE TO EVERYONE.

SHIBUKAWA YUKI | TANAKAWA RYOMA | KUROKI KAZUYUKI | YAMAZAKI TOSHIKI

**APEX**  
HAL TOKYO  
CREATED BY SHIBUKAWA YUKI

### BACKGROUND

Millions of children get no education around the world.

According to the data of UNICEF2017, there're approximately 61 million children out of school in the world. More than half of the children are living in the south of Sahara desert, Africa. There're many reasons why children get no education, such as school is too far away from home, not enough teachers and so forth.

### CONCEPT

Classroom, teachers, teaching materials and school bus all in one.

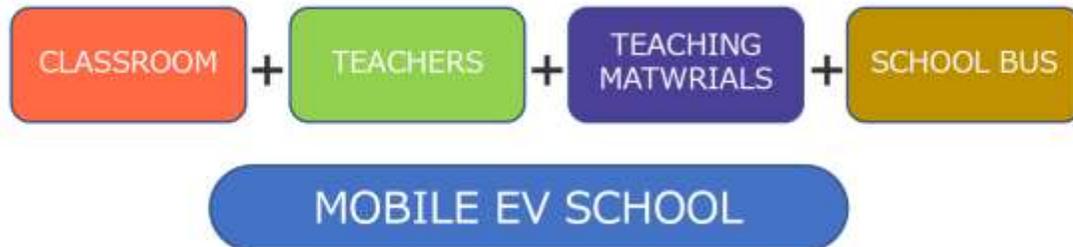
CLASSROOM + TEACHERS + TEACHING MATERIALS + SCHOOL BUS

### MOBILE EV SCHOOL

By making the EV as the mobile classroom, the commuting time can be significantly shorter or even gone. Also, the class would be held online based on the 5G technology. Teachers from all over the world can start a class in front of their computer at home. The lesson can be part of the volunteer work from abroad. All the latest digital textbooks are available online. The bottom part of the EV can be separated from the top component, which acts as a school bus, transporting children who live far away.

### TIMELINE

- 1 School Transporting
- 2 Disengaging
- 3 Docking
- 4 Children Transporting



- MAKE EDUCATION ACCESSABLE TO EVERYONE -

## TARGET

Shewula, Kingdom of Eswatini, South Africa.

### TARGET

Shewula, Kingdom of Eswatini, South Africa.

Shewula is location in the east of the capital city of Kingdom of Eswatini, Mbabane, about 150 kilometers away from the capital and takes about 3 hours to drive to the city. It's one of the poorest area of the Kingdom of Eswatini. A program called Saving Group, which is for the children's future education, is established by a Japanese global cooperation group, currently 50 children are part of the saving program.

### PACKAGING

2020  
4000  
2450

### USAGE SCENE

By using the advanced 5G technology, children can be able to communicate with teachers from all around the world. Giving children a much more direct way to study the world.

# みんなでモビリティの未来を描こう!!

電気自動車普及協会主催 国際学生デザインコンテスト入賞作品の紹介



- 電力バランスを取りながら発電走行します。
- 地面設置型の給電スポットは、待ち合わせ場所や休息場所になり、コミュニティの中心となります。
- 高剛性のテトラ構造が衝撃を受け流します

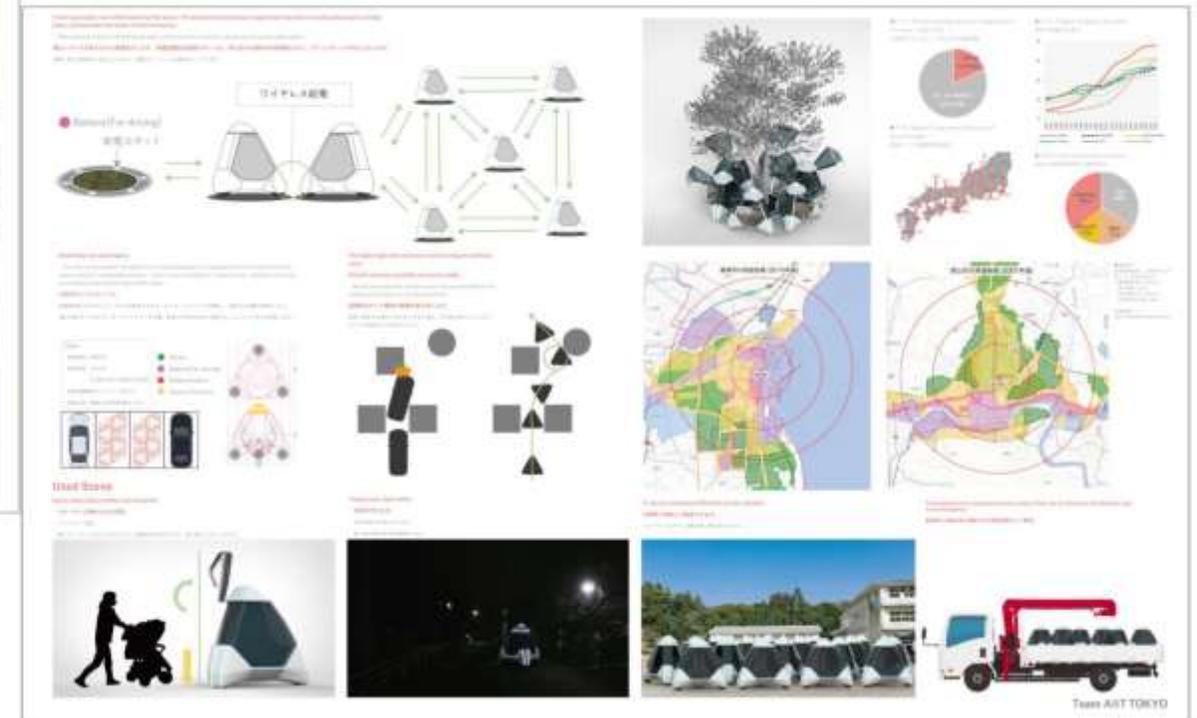
世界で一番高齢化が進み、世界の大地震の18%が起こる日本で、災害から交通弱者の命をつなぐモビリティ

自動運転/低速移動

+

災害(津波/洪水等)1次救命ポット

地域コミュニティ再生



# みんなでモビリティの未来を描こう!!

電気自動車普及協会主催 国際学生デザインコンテスト入賞作品の紹介



## SDGs

BAMBIは「持続可能な開発目標 SDGs」のうちの2つについて考慮している。



### 2 飢餓をゼロに

家庭での買い物による、食品廃棄を減らす。  
Prevent food waste from over-purchasing at home.

日本でも、「食品ロス削減推進法」という新しい法律が施行され、10月には「食品ロス削減月間」となっている。



### 11 住み続けられるまちづくりを

駐輪場での盗難被害や、歩行者の妨げを減らす。  
Minimize theft damage in bicycle parking lot and hindrance of pedestrians.

停める必要のないEVなので、駐輪スペースを削減して有効に使えるというメリットがある。その空いたスペースに木を植えることで、雨に緑が増え、住み続けられるまちづくりの実現に繋がる。

**PRICE**  
¥2,290

**FEATURES**

- 1. 折りたたみ式で持ち運びが簡単
- 2. 盗難防止機能
- 3. 歩行者への配慮
- 4. 充電式で環境に優しい
- 5. 軽量で乗りやすい

**SCENE**  
買い物の仕方

**充電と運用**

**家庭での充電**

**BAMBI SHOPPING BIKE**







## 事後ワークショップ

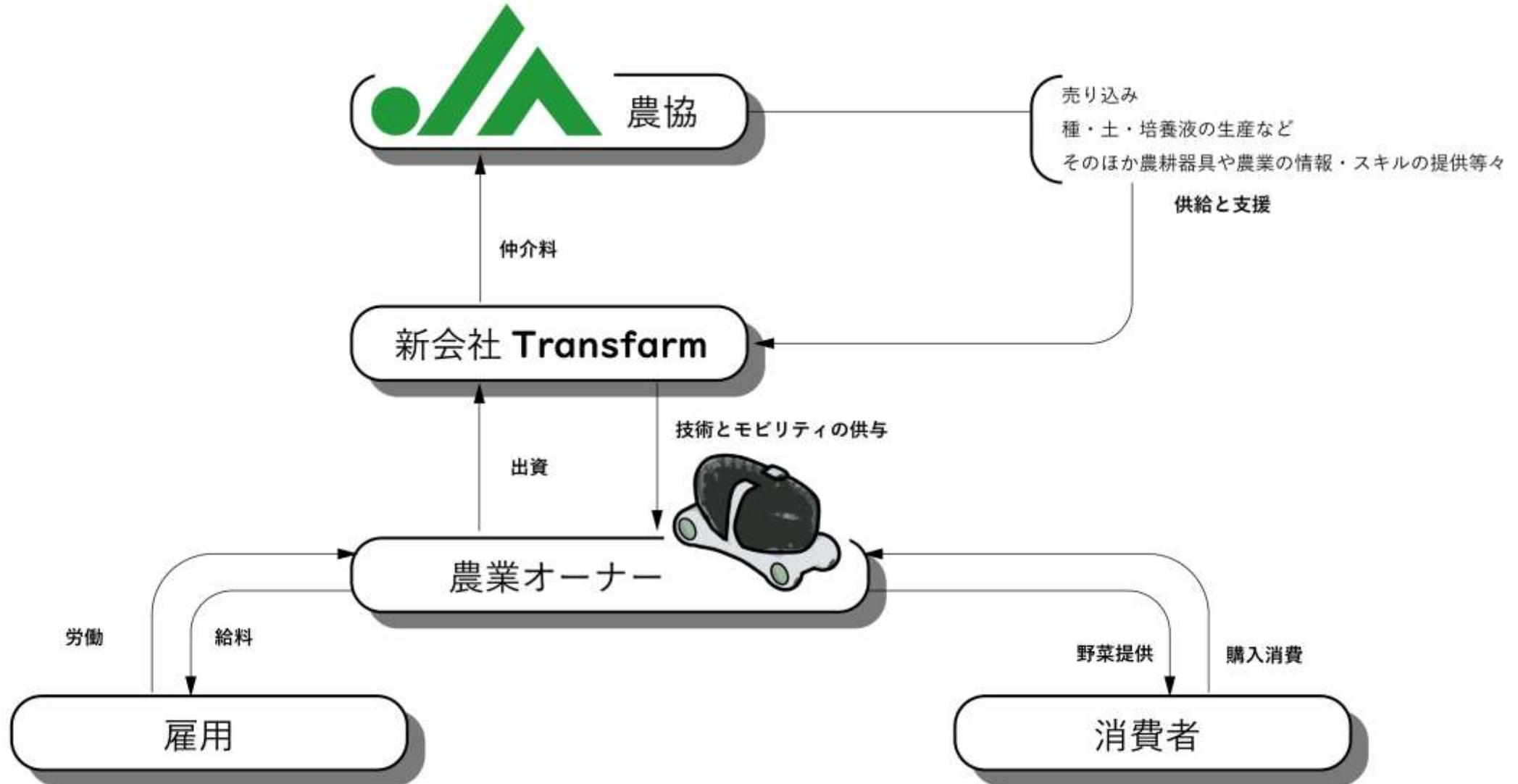


2022年10月18日のコンペ授賞式後  
10月20日に事後ワークショップ開催



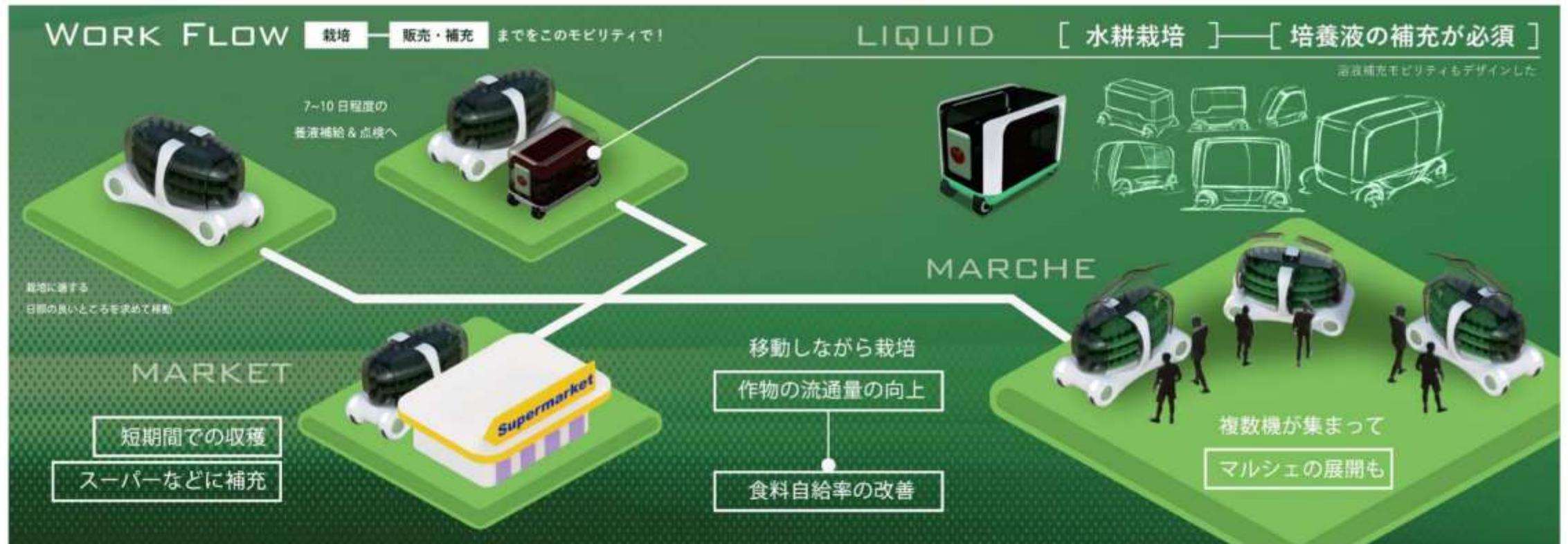
アイデアのブラッシュアップ及び  
ビジネスモデル化について討議した

# 全国各地のJAを介したビジネス展開



# デザイナーのビジネスコーディネート参入

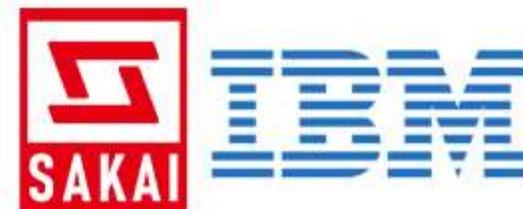
デザイナーがサービスモデルを考える事で、より明確なユーザー体験の構築に繋がっていくと考えた



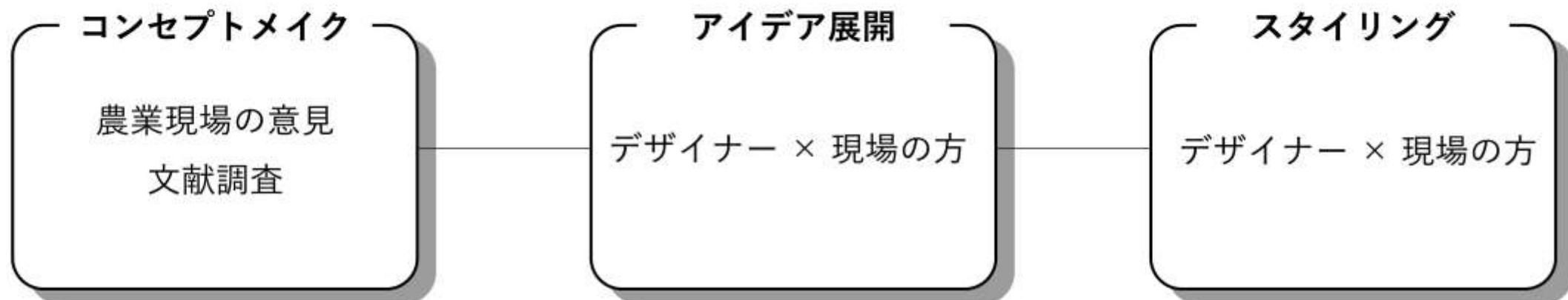
## 日本 IBM での研修会におけるプレゼン

2022 年 12 月

日本 IBM の研修会 KURUMAZA にてオンラインにて Transform の発表及び議論



## スタイリングにおける課題提起

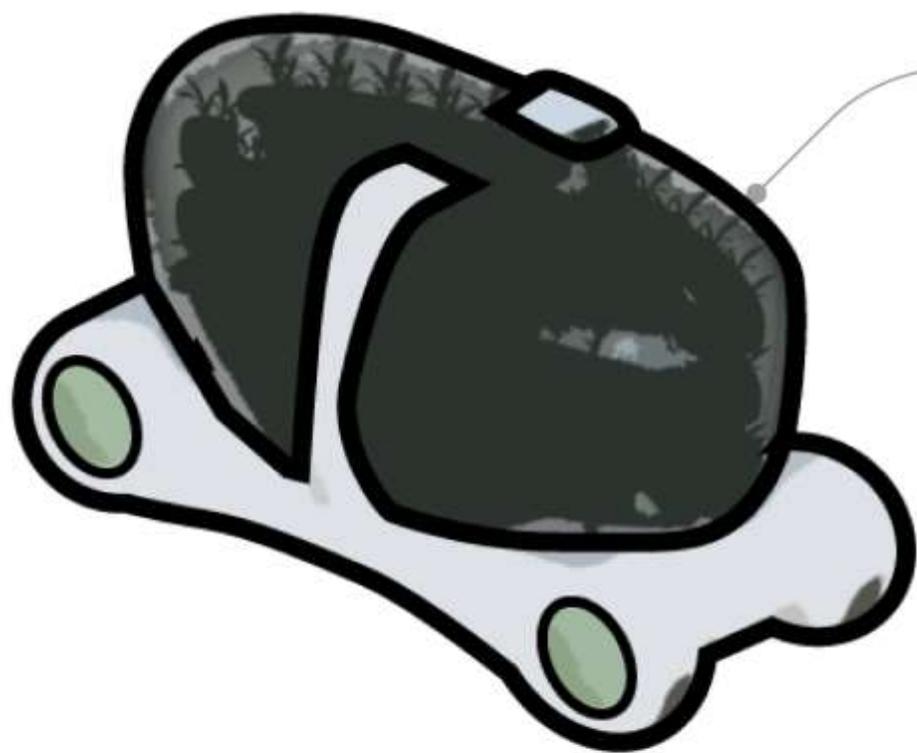


スタイリング作業を現場の人を取り込んだ手法にすると  
更に現場の意見を反映したデザインが行われていくのではないかと

本音

**なんか机上の空論感あるな**

**実際に作ってみたい！**



重量は？  
コストはどれくらいか  
既存の農業よりどれくらい良いか  
価格・収穫量・運用メンテナンス等々  
ナンバー取得は？  
太陽光の発電でいけるの？

**やってみないと分からないことが多い**

# 机上の空論で終わらせるコンペはやめよう！

モビリティのあり方そのものを根本から見直す必要がある

デザイナーもスタイリングの手法に変化が生じるのであれば、その逆も然り  
ユーザーがスタイリング(それに準じたことを行う)こと。デザイナーがそれをサポートする

デザイナーがデザインする領域を増やしていく必要がある・オールラウンド型

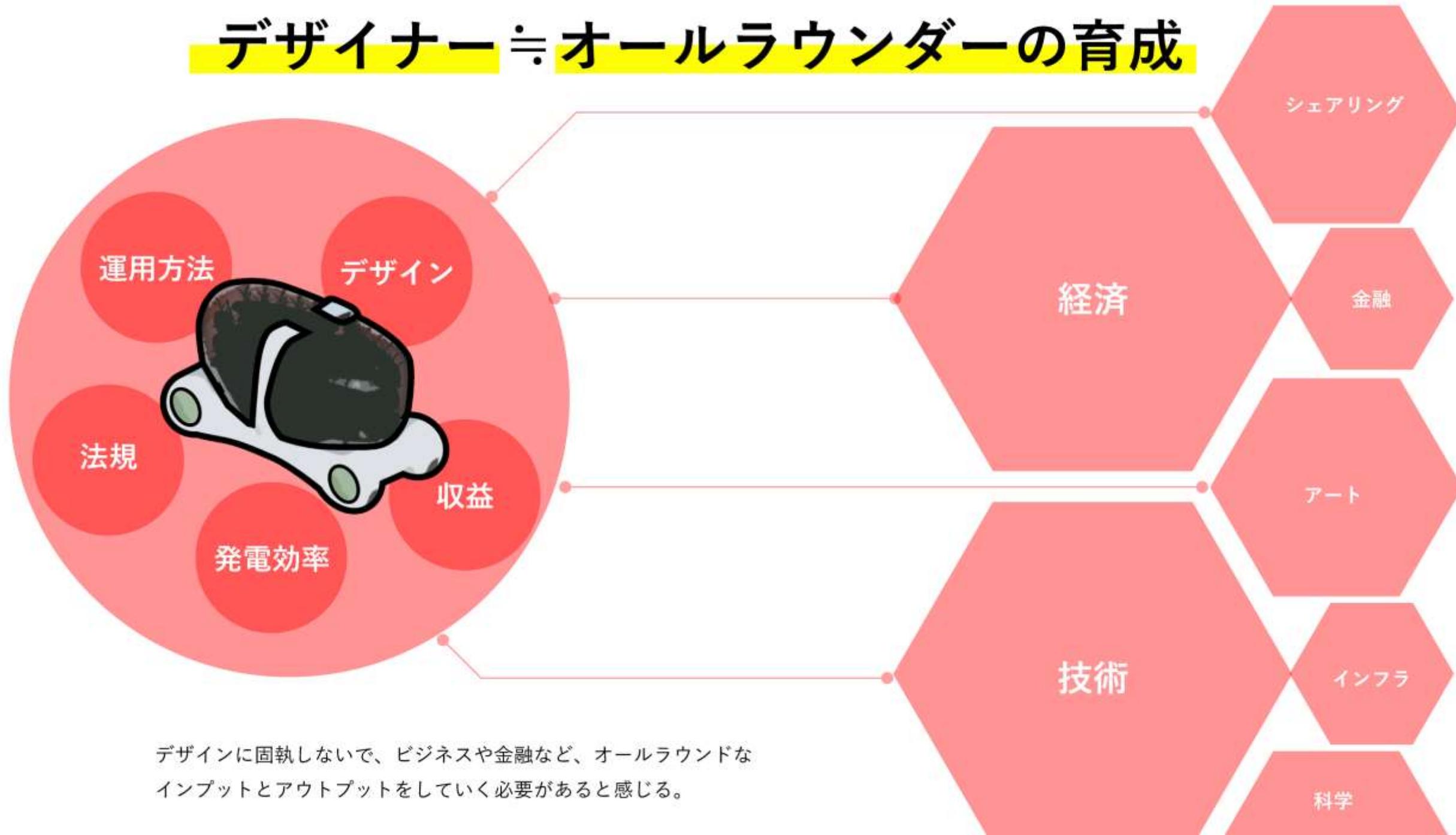
# 机上の空論で終わらせないためには

精度を上げる

知識の幅を増やす

デザイン以外の  
他の多くの領域に  
触れる

# デザイナー≒オールラウンダーの育成



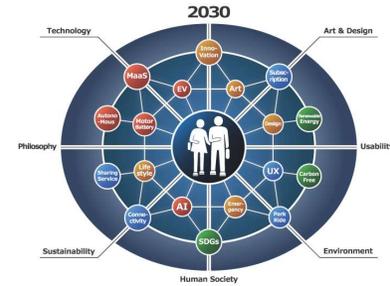
デザインに固執しないで、ビジネスや金融など、オールラウンドな  
インプットとアウトプットをしていく必要があると感じる。

これからのデザイナーがやるべき事

# オールラウンドに！

様々な領域のプレイヤーと関わりを持つと  
社会課題が自ずと見えてくるはず  
自領域に固執しないクリエイティブ活動を行う





## 参加校メッセージ

HAL東京 白岩 直人先生

# 白岩 直人

学校法人 日本教育財団 HAL東京 教務部 教官



元) 日産自動車(株) グローバルデザイン本部 チーフデザイナー

## ■ 1982-2001 製品デザイン開発

マーチ(K11)、スカイライン(R33)、プリメーラ(P11)、ステージア(M35)、GT-R先行など他多数



## ■ 2001-05 先行デザイン・コンセプトカー開発

YANYA('02/Geneva)、SERENITI('03/Tokyo)、REDIGO('03/Tokyo)他



## ■ 2005-09 製品デザイン開発

ムラーノ(Z51)、Infiniti FX(S51)、フーガ(Y51)、370Z(Z34)他



## ■ 2010-19 体系先行デザイン・プロポーション&パッケージ開発

次期ラインナップ(B,C,D,E,フレームSUV-seg)、次期EVラインナップ、次期Sports他



学校法人・専門学校

# HAL

カーデザイナーを目指す専門学校

## ▶ カーデザイン学科 昼間部 / 4年制

文部科学大臣認定 職業実践専門課程認定学科

高度専門士 取得可

『給与保証制度』対象学科

『完全就職保証制度』対象学科

デザインと立体造形の基礎から業界標準の高度なデジタル技術までを身につけ、未来のクルマを具現化できるクリエイターを育成。

### [ 卒業後に目指す職種 ]

カーデザイナー、カーインテリアデザイナー、カークレイモデラー、プロダクトデザイナー、プロダクトCGモデラー、CADモデラー、UI/UXデザイナー、ハードモデラー ほか

新宿(西口)駅前 徒歩3分

地上50階 総合校舎コケーンタワー

TOKYO

HAL東京

大阪駅前 徒歩3分

地上21階 HAL大阪総合校舎

OSAKA

HAL大阪

名古屋駅前 徒歩3分

地上36階 総合校舎スパイラルタワーズ

NAGOYA

HAL名古屋

# “教育”

## EVを使った教育施設

「COCOON EV-School」は、  
 まだ設備が整っていない地域や  
 自然の中での野外学習などに  
 スクールバスと多言語によるe・ラーニング教室  
 が合体した夢のモビリティを提供します



## ■最優秀グランプリ【副賞：20万円】

HAL東京 カーデザイン学科

Team “APEX”



# “観光”

観光立国へ思い出をサポート

「SAICA」は、

カメラ/GPSやRadarそしてAIが搭載され

- ある時は多言語ツアーコンダクターに
- そしてある時は搭載ドローン情報の共有でいつでもどこでも観光のお供になります



■ 経済産業大臣賞【副賞：10万円】

HAL大阪 カーデザイン学科

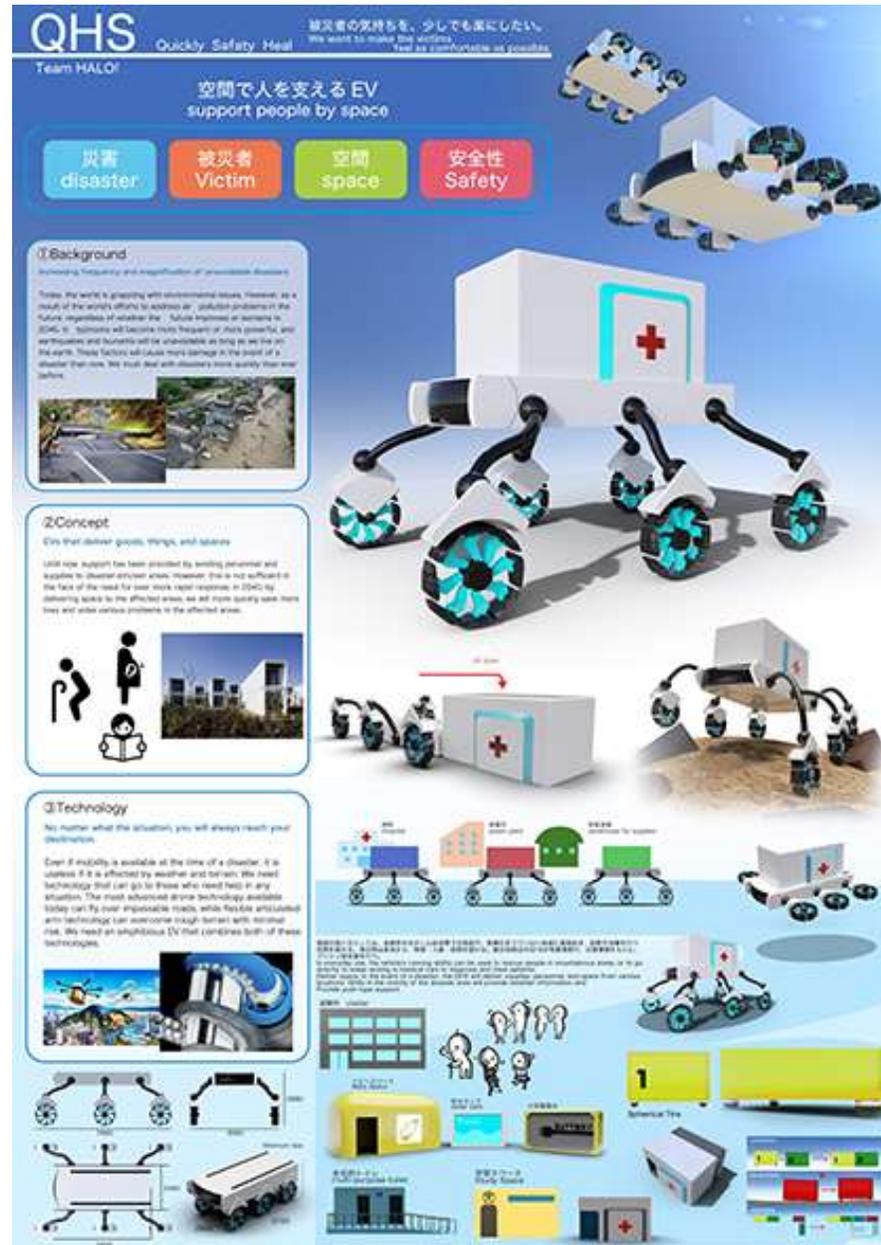
Team “T2D”



# “災害”

様々な空間で人を支える

被災者の人々気持ちを、少しでも楽にする  
ためには様々な空間の提供と考えた  
空間（コンテナ）を積んで道なき道にも  
分け入りことが出来る、ドローン機能にもなる  
多関節モジュールモビリティの提案です



■環境大臣賞【副賞：10万円】

HAL東京 カーデザイン学科

Team “HALO!”



# モビリティで2030 を創る【 X City の提案】

2020

2024

“2030”

2040

2050



NTT docomo 5G



HAL TOKYO

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

NTT docomo 6G



EV30車種



電動化率50%



新車は全て EVとFCV

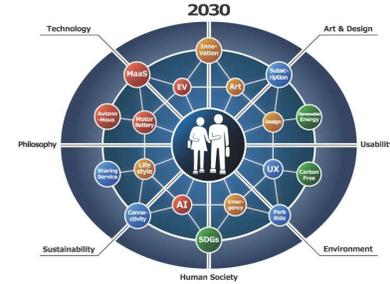
2050年	
国名	GDP予測
中国	58,499
インド	44,128
米国	34,102
インドネシア	10,502
ブラジル	7,540
ロシア	7,131
メキシコ	6,863
日本	6,779
ドイツ	6,138
英国	5,369

## <HAL3校での取り組み>

- 各校1年生（4月～新2年生）の計3チームで参加
- 20才のフレッシュな創造力、表現力を最大限引き出したい
- W/Sや協賛社等との学外交流を通じた情報やF/Bを大いに活かし成果につなげたい

---

よろしくお願ひ致します



## 2024年企画説明

APEVアドバイザー 望月 公哉

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ テーマ

# “モビリティで2030を創る” 【X-Cityの提案】

## ■ THEME

“ Create 2030 by new Mobility ”  
[Proposal for X-City]

## ■ 期間

2024年 2月中旬 : エントリー開始

2024年 4月下旬 : プレワークショップ

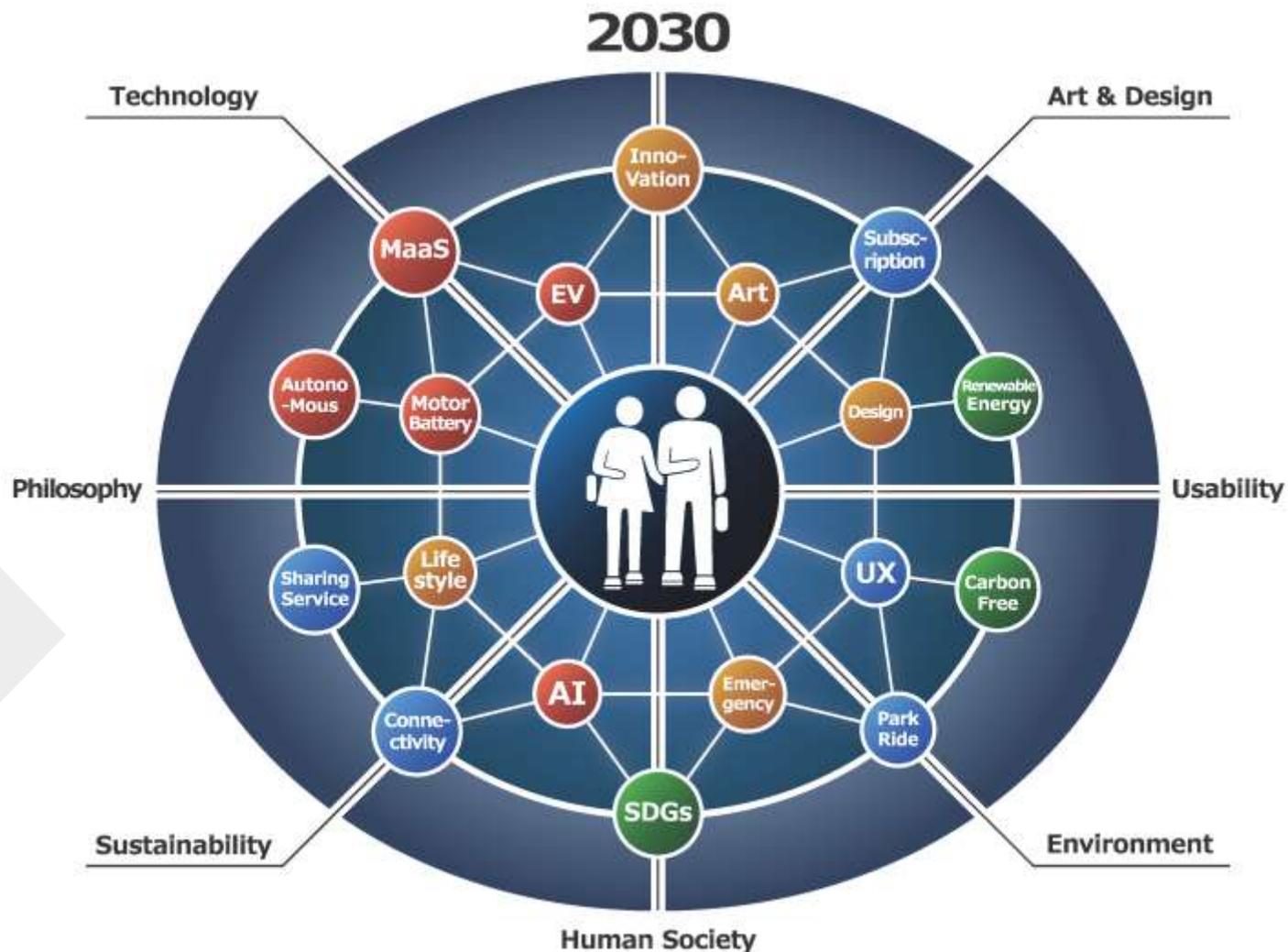
2024年10月下旬 : 最終選考&表彰式

## ■ Schedule

Middle of February 2024: Start of accepting applications

End of April 2024 : Pre-Workshop

End of October 2024 : The final screening & award ceremony



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

2024/2/4

## ■ テーマ

# “モビリティで2030を創る” 【X-Cityの提案】

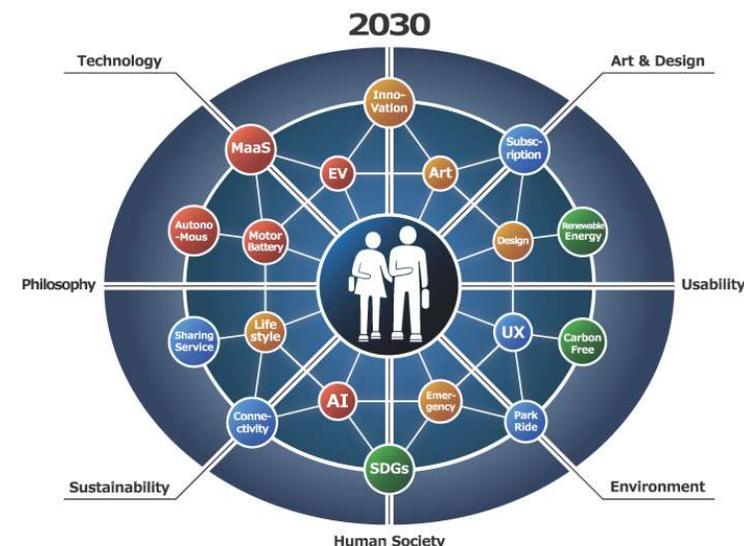
## ■ THEME

“ Create 2030 by new Mobility ”  
[Proposal for X-City]

## 目的 : 「次世代を担う融合型人材の育成」

融合型人材 = アーキテクトの育成の機会としてのワークショップ

- モビリティを取り巻く専門性に留まらず、  
デザインやエンジニアリングの範囲を超え、  
確固たるビジョンと洞察力を有する人材を指す。



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

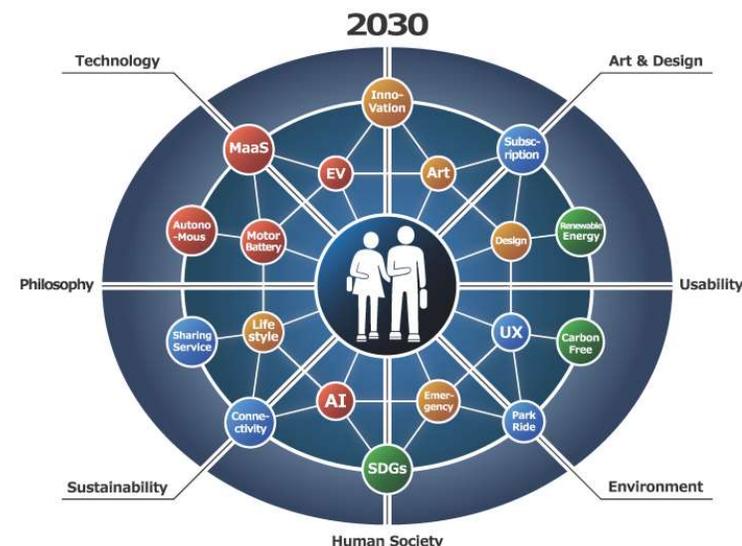
2024/2/4

## ■ テーマ

# “モビリティで2030を創る” 【X-Cityの提案】

## ■ THEME

“ Create 2030 by new Mobility ”  
[Proposal for X-City]



## 融合型人材 = アーキテクトの育成の機会としてのワークショップ

- 「Art/Design」 「Philosophy」 「Technology」 に関する高い専門的知識と、豊かな「Sustainable & Human Society」を有す。
- 他分野を巻き込み、プロジェクトのために協力する磁場を構築することができる、総合的な能力の持ち主と定義する。

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

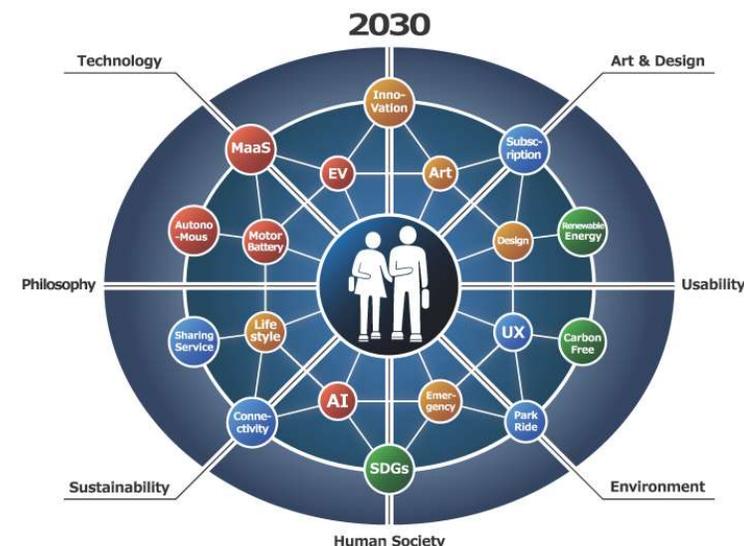
2024/2/4

## ■ テーマ

# “モビリティで2030を創る” 【X-Cityの提案】

## ■ THEME

“ Create 2030 by new Mobility ”  
[Proposal for X-City]



## X-Cityに於ける社会課題を解決する提案

- 応募者が設定する具体的な市 (= X-City) 地域が抱える各分野の課題を指す。  
モデル：横浜市、名古屋市などの都市、住宅地、農業・漁業地域などの  
陸・海・空フィールドが対象

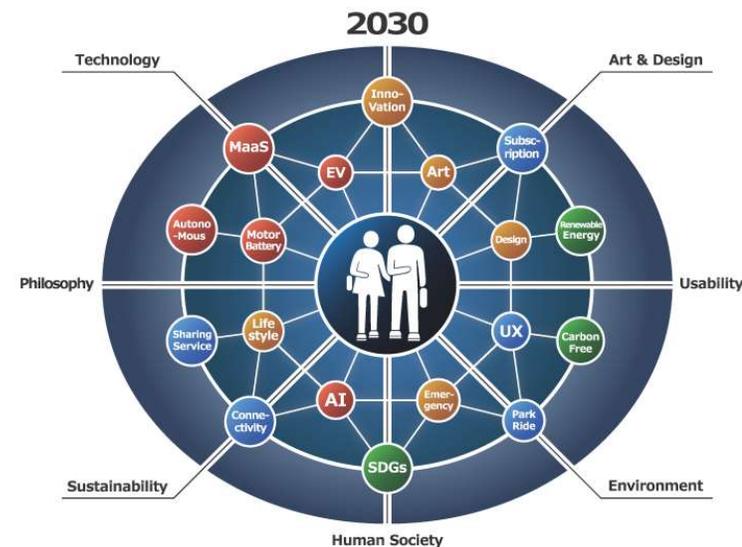
# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop



## 応募要領

- 資格 : 2024年4月時点で15歳~30歳 (プロのデザイナー・プランナーは除く)
- エントリー費 : 無料
- 組織をまたがるチーム編成も可  
(組織をまたがるチームを作りたい場合は主催者に相談)
- 参加者は主催者が指定するSNS(別途決定) に登録でき、  
各種案内にタイムリーに回答できる
- 作品は英語を基本とする (母国語を併記することは可)



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



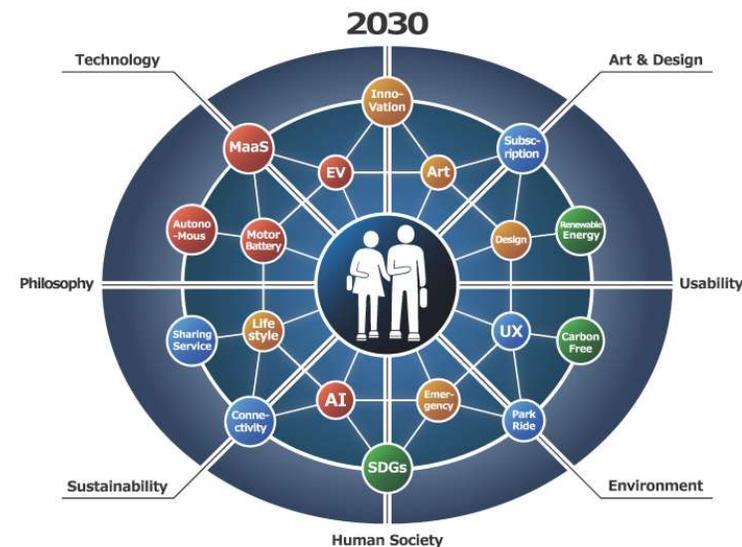
APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ 賞（最優秀賞は設けない）（申請予定）

- ✓ 環境大臣賞 : 10万円 + 賞状
- ✓ 経済産業大臣賞 : 10万円 + 賞状
- ✓ 国土交通大臣賞 : 10万円 + 賞状
- ✓ 文部科学大臣賞 : 10万円 + 賞状
- ✓ 協賛団体賞 : 協賛団体から提供される物品等 + 賞状

## ■ 組織

- ✓ 選考委員 : 女子美術大学 教授 松本博子 先生、Xスタイル安藤 俊也氏、協賛社推薦、自治体
- ✓ 協賛社連絡会 : 協賛社各位
- ✓ サポーター : APEV会員、一般公募、Xスタイル安藤 俊也氏 ほか



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

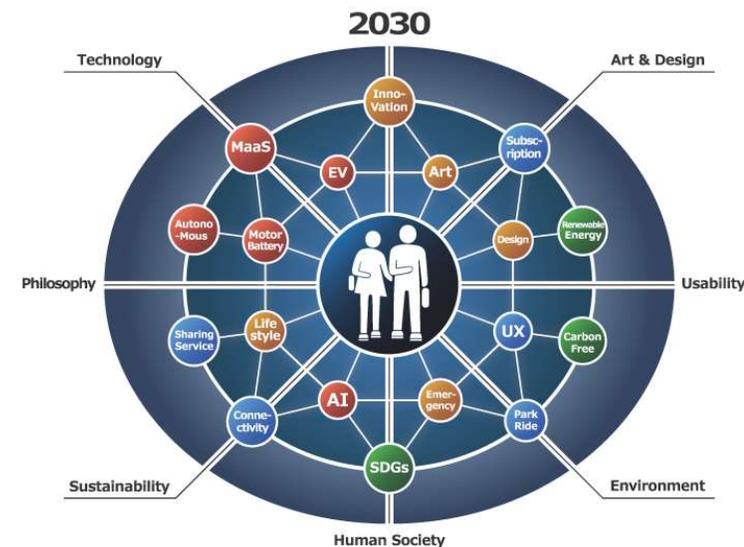


APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ 進め方

参加者からシステム及びスタイリングデザインの提案を募り、優秀な提案は試作・実証実験まで進む可能性がある。そのため、協賛社と参加者がタッグを組んで作品を仕上げる「場」を提供する。

- ✓ 提出物：コンセプトをチェックリスト(別途提示)を埋める形で記載して貰う。判りやすい文章を基本とし、簡単な図(チャート等)やラフスケッチで提案する。
  - ✓ 選考会：
    - ◆ 1次：応募提案を選考基準に従い選考する
    - ◆ 2次：プレゼンと質疑応答ののち各賞を決定する
  - ✓ 協賛社とのマッチング： 選考の結果、協賛社が参加チームを選定し、タッグを組んで作品を仕上げる。
  - ✓ 最終成果発表と表彰式：公開の場で成果発表と表彰式を行う
- ## ■ 選考基準：前回2022年の評価基準を基本とし実現性も考慮する



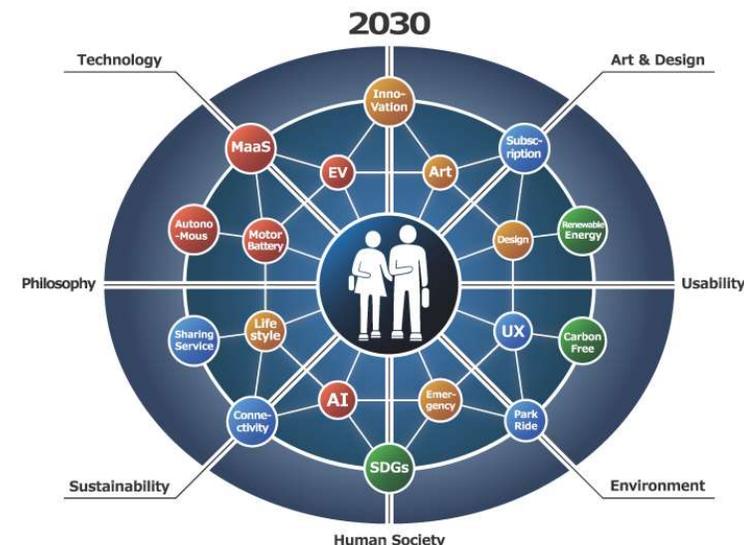
# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ ワークショップ (WS)

- ✓ プレWS : リモートによるテーマ説明、協賛社からの情報提供等。
- ✓ WS1 : 選考通過者をチームに分け、各提案を基にチームディスカッション。  
協賛社とタッグを組む場合は、その後の交流は協賛社が行う。  
リアルを基本とし必要に応じてオンラインを行う。
- ✓ WS2 : 中間報告と、協賛社、メンター、サポーターと共にディスカッション。  
リアルを基本とし必要に応じてオンラインを行う。
- ✓ WS3 : 最終発表に対する協賛社や選考委員からの講評とアドバイス



## ■ 体制

- ✓ 主催 : 「モビリティで2030を創る」 実行委員会 (協賛各社含む)
- ✓ 事務局 : 一般社団法人 電気自動車普及協会 (APEV)
- ✓ 後援 (申請予定) : 環境省、経済産業省、国土交通省、自動車技術会、東京大学大学院情報学環、東京都、日本自動車工業会、文部科学省、横浜市
- ✓ 協賛 : APEV会員、他募集中

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ 全体日程

内容	2024年									
	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov
キックオフ記者発表会	★4@YOXO Festival									
プレWS募集		プレWS 募集								
本番募集	参加 募集									
SNSによる交流	[Cyan bar]									
作品〆切					⊕					
選考会					1次 ⊕				2次 ⊕	
協賛社+チーム協業						[Green bar]				
ワークショップ(WS)			プレWS ⊕		WS1 ⊕		WS2 ⊕		WS3 ⊕	
協賛社とチームのマッチング						★				
成果発表&表彰式									本番 ⊕	

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ご協賛社様メリット

- 社会デザイン等の未来を担う学生の育成に貢献（人材育成、社会貢献）
- 参加学生及び指導教官との交流（社内活性化、リクルート）
- 他の協賛社・選考委員等との交流（B2Bマッチング）
- e-Mobility普及活動、温暖化防止活動をする企業・団体であることを内外にアピール

	パッケージタイプ		
	Gold	Silver	Bronze
①SNSサイトへのバナー掲載・ブログを活用したPR	●	●	●
②特設サイト（専用Webサイト）へのバナー掲載	●	●	●
③ワークショップへ参加し参加者と交流	●	●	●
④印刷物（ポスター・チラシ・2024作品集等）への社名・ロゴの掲載	●	●	●
⑤選考会に参加	●	●	
⑥事例（2次活用）の一部権利のご提供	●	●	
⑦公開イベント（記者発表会。表彰式等）での自社PR及び展示	●	●	
⑧企業冠賞を設定：選考で投票し表彰式で賞状・副賞を授与	●		
⑨冠賞企業のご要望に応える特別な取り組み（出前授業、メディアリンク等）	●		
<b>金額（消費税別途）</b>	<b>500万円</b>	<b>250万円</b>	<b>100万円</b>

# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ

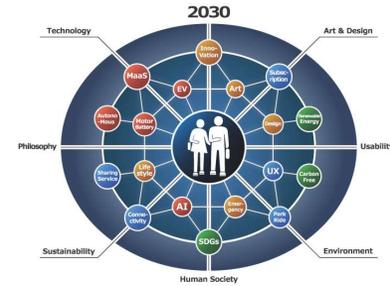


APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ 過去協賛社様 24社

- ◆ IHI運搬機械(株)
- ◆ (株)アスプロス
- ◆ NTN(株)
- ◆ カーデザインアカデミー
- ◆ CCCマーケティング(株)
- ◆ (株)ストラタシス・ジャパン
- ◆ ダッソー・システムズ(株)
- ◆ デル・テクノロジーズ(株)
- ◆ (株)ツールズインターナショナル
- ◆ トヨタ自動車(株)
- ◆ 日産自動車(株)
- ◆ 日本アイ・ビー・エム(株)
- ◆ 日本ヒューレット・パッカー(株)
- ◆ 日野自動車(株)
- ◆ (株)フォーラムエンジニアリング
- ◆ ボッシュ(株)
- ◆ (株)本田技術研究所
- ◆ 丸紅情報システムズ(株)
- ◆ 三菱ケミカル(株)
- ◆ MONET Technologies(株)
- ◆ ヤマハ発動機(株)
- ◆ ルネサス エレクトロニクス(株)
- ◆ レノボ・ジャパン(株)
- ◆ (株)ワコム

## 質疑応答



挙手された方に順次担当がマイクをお持ちします。  
質問のみ簡潔にお話してください。



# APEV : 「モビリティで2030を創る」 国際ワークショップ



APEV : 「Create 2030 by New Mobility」 International Workshop

## ■ テーマ

# “モビリティで2030を創る” 【X-Cityの提案】

## ■ THEME

“ Create 2030 by new Mobility ”  
[Proposal for X-City]

# EOF

## ■ 期間

2024年 2月中旬 : エントリー開始

2024年 4月下旬 : プレワークショップ

2024年10月下旬 : 最終評価&表彰式

## ■ Schedule

Middle of February 2024: Start of accepting applications

End of April 2024 : Pre-Workshop

End of October 2024 : The final screening & award ceremony

